石器時代總論要領

坪井正五郎

青空文庫

●●●●
○石器時代トハ石時代ト直譯スベキ歐羅巴語ノ意譯ニシテ、石ヲ以テ利器原料ノ主要ナルモノトナス時代ヲ云フ。
●●●
○石時代ト稱スベキモノヽ存在ハ今ヨリ凡六十年前「デンマルク」及ビ「スウエーデン」ノ學者ノ考定セシ所ニシテ、此名モ彼等ニ由リテ始メテ用ヰラレタルナリ。
●●●●●●●
○考古學上ノ三時代トハ石時代、青銅時代、鐵時代ノ事ナルガ、青銅時代、鐵時代ノ二ツノ稱ヘハ今ヲ距ル二千六百年前「ヘシヲツド」既ニ之ヲ使用セリ。
●●●●●
○人類墮落説ハ古代「ギリシヤ」人ノ唱ヘシ所ニシテ、「ヘシヲツド」ハ墮落ノ順序ヲ五期ニ分カチテ歌ヘリ。
第一期ハ金時代。此時代ノ人民ハ無邪氣ニシテ、幸福多ク、病苦老衰ヲ感ズル事無クシテ死セリト云フ。
第二期ハ銀時代。此時代ノ人民ハ快樂少ク、生命短ク、老衰ヲモ感ジタリ。此人民ハ敬神ノ心乏カリシヲ以テ、「ゼウス」神ノ爲ニ絶ヤサレタリト云フ。
第三期ハ青銅時代。此時代ノ人民ハ「ゼウス」神ガとねりこノ木ヨリ造リ出ダセルモノニシテ、青銅ノ家ニ住ヒ、青銅ノ武器ヲ以テ爭鬪シ、青銅ノ農具ヲ以テ耕作セリト云フ。
第四期ハ英雄時代。此時代ノ人民ハ前時代ノ人民ニ比シテ氣質稍優等ナリシト云フ。
第五期ハ鐵時代。不正ナル事行ハレ、苦痛多シ。是「ヘシヲツド」ガ自身ノ住メル現世ヲ指シ

テ云ヘルナリ。

●●●●●

○五期ノ名稱中第四英雄時代ト云フノ他ハ皆金屬ノ名ニ由リテ時代ヲ區別セリ。金ト銀トハ全然形容ナレドモ、青銅ト鐵トハ半バ形容ニシテ半バ器具原料ヲ示シタルモノナリ。今日ニ在テハ銀時代ナル名稱ハ人ノ用ヰザル所ナレドモ、黄金時代或ハ黄金世界ナル名稱ハ形容ノ語トシテ行ハレ、青銅時代鐵時代ナル名稱ハ考古學上ノ術語トシテ行ハル。墮落説勢力ヲ失ヒタルモ是ニ附隨セル名稱ハ未ダ其跡ヲ沒セザルナリ。

●●●●●●

○歐羅巴ノ古器物特ニ利器ノ原料ニ鐵ト青銅トノ別有ル事、及ビ鐵製利器ノ盛ニ行ハルヽニ至リシ前、青銅製利器ノ盛ニ行ハレタル時代有リシ事ハ古ヨリ人ノ知ル所ナリシガ、北部歐羅巴ニテ夥多ノ石製利器發見サルヽニ及ビ恰モ鐵器ニ先ダチテ青銅器ノ行ハレタルガ如ク、青銅器ニ先ダチテ石器ノ行ハレタル時代有リシナラントノ説起コレリ。之ヲ石時代ト云フ。此名ハ其形ニ於テ●●明カニ青銅時代鐵時代ト云フ名ノ影響ヲ受ケタルナリ。

○三時代ノ前後ヲ示ス好例ハ「スウィッツァーランド」ノ湖ノ底ト「デンマルク」ノ※炭層トニ於テ發見サレタリ。両所共上部ハ鐵器ヲ出ダシ、中部ハ青銅器ヲ出ダシ、下部ハ石器ヲ出ダセリ。此ニ於テ人類ハ石時代ヨリ、青銅時代ニ移リ、青銅時代ヨリ鐵時代ニ移リタルモノナリトノ説廣ク世ニ行ハルヽニ至レリ。然レドモ

●●●●●●●●●

○人類ハ必シモ三時代ヲ經過セズ。亞米利加土人中ノ或者、「アウストラリヤ」土人、「ニウギニヤ」土人、「アンダマン」土人等ハ石器使用中ニ開明國人ニ接シテ鐵器ノ用ヲ知レリ。一

旦青銅器ヲ使用スル事能ハズトノ理由一モ存スル事無シ。

○三時代ノ順序ハ不自然ナリ。青銅ハ二種ノ金屬ヲ混ジテ造ラルヽモノ、決シテ天然ニ産スルニ非ズ。石ヲ碎キ石ヲ研ギ以テ鏃ト成シ斧ト成シタル人民何ゾ自然ノ順序トシテ青銅器ヲ製シ出ダサンヤ。青銅器使用人民ノ鐵器ノ用ヲ知ルニ至リシモ亦自然ノ順序トハ考ヘ難シ。歐羅巴二三ノ地方ニ三時代變遷ノ跡アルハ、單ニ是等ノ地方ニ於テ偶マ斯カル變遷有リシトノ事ヲ證スルノミ。假令同一人民ニシテ青銅器ト鐵器トヲ用ヰタル事有リトスルモ、鐵器ノ用ハ常ニ青銅器ノ用ニ後ルト定マリタルモノニハアラザルナリ。

○同一地方ノ發見物ハ必シモ同一人民ノ手ニ成リシ物ニアラズ、トハ亞米利加ニ於ケル事實ニ由リテ理解スルヲ得ベシ。歐羅巴ヨリ移住シタル鐵器使用人民ハ亞米利加舊來ノ石器使用人民ノ棲息セシ地ニ家屋ヲ建築セリ。鐵器石器混交シテ發見サルヽ事有ルモ、又ハ鐵器ノ存在スル地ヨリ深キ所ニ於テ石器ノ發見サルヽ事有ルモ、誰カ是等ノ石器ヲ以テ移住民ノ祖先ノ遺シタル物トナサンヤ。

○石器時代ナル語ニハ年歴ノ意味無シ。同一人民ニ就テ石器使用ノ時代ト金屬器使用ノ時代トヲ比ブレバ、勿論石器使用ノ時代ノ方古ク、同一地方ニ在テ石器使用人民棲息ノ時ト金屬器使用人民棲息ノ時トヲ比ブレバ、通例石器使用人民棲息ノ時ノ方古シ。然レドモ甲ノ人民金屬器ヲ使用スル時、乙ノ人民尚ホ石器ノ用ヲ廢セザル事有リ、甲ノ地方ニハ石器ノ行ハルヽ時、乙ノ地方ニハ既ニ金屬器ノ行ハルヽ事有リ。諸地方諸人民ヲ通ジテ石器時代ハ今ヨリ何程以前ナ

リトハ決シテ云フ事能ハザルナリ。

○石器時代人民必シモ野蠻ナラズ。北亞米利加ノ南部ヨリ南亞米利加ノ北部ニ掛ケテ古代開化國ノ存在セシ證跡甚ダ多ク、諸建築諸彫刻ノ外形ノミヲ見ル時ハ殆ト「ヱジプト」ノモノニ亞グガ如キ觀有リ。然レドモ是等遺跡ノ中ニハ石器ノ他更ニ利器ヲ出ダサザル所有ルナリ。中央亞弗利加ノ土人ハ其開化ノ度ニ於テ古代亞米利加ノ開化人ノ上ニ在リトハ云フ能ハズ。然レドモ彼等ノ中ニハ種々ノ金屬製利器ヲ使用スル者有ルナリ。「クヰンスランド」土人ト「ニウジイランド」土人ト等シク石器時代ノ人民ナリト雖モ開化ノ度ニ於テハニ者相距ル事遠シ。利器原料ノ如何ハ未ダ以テ之ヲ使用スル者ノ開否ヲ判斷スルニ足ラザルナリ。

○石器時代人民相互ノ關係ハ、古今ノ比較ニ於テモ東西ノ比較ニ於テモ、通例ノ人種調査ニ要スル順序ヲ經テ始メテ明カニスルヲ得ベキハ勿論ナリ。單ニ石器時代ノ人民ナルノ故ヲ以テ甲ハ乙ノ後裔ナリトハ云フ能ハズ。單ニ石器時代ノ人民ナルノ故ヲ以テ甲ト乙トハ同種族ノモノナリトハ云フ能ハズ。同一地方ニ於テモ時代ヲ異ニスレバ固ヨリノ事、假令同一時代ナリトモ、種族ヲ異ニスル石器時代人民ノ棲息スル事有リ得ベカラザル事ニハアラザルナリ。

○日本ニ石器時代ノ遺跡多シ。之ヲ大別スレバ、（一）遺物散布地、（二）遺物包含地、（三）貝塚、（四）竪穴ノ四類トナル。遺物散布地トハ地上ニ遺物ノ散在スル所ヲ云フ。石器時代人民棲息ノ年代甚シク古カラザル場合、及ビ天然或ハ人爲ニ諸遺跡ノ攪亂サレタル場合ニ此事有リ。遺物包含地トハ地下ニ遺物ノ挾マレル所ヲ云フ。是故ラニ埋メタルニアラズ、遺物ノ上新

ニ土ノ生ジタルナリ。此土ノ厚サハ遺物ノ新古ヲ測ル一根據トナスヲ得。貝塚ハ石器時代人民ガ食余ノ貝殻ヲ捨テタル所、竪穴ハ石器時代人民ガ住居セシ跡ナル事、是等ノ中ヨリ發見サルヽ遺物ニ由リテ推知スルヲ得ベシ。

○日本石器時代遺物中ノ著明ナル物ハ石器及ビ土器ナリ。石器ニ打製石斧、磨製石斧、石鏃、石錐、石棒等アリ。土器ニ容器、土偶、土版等アリ。是等遺物ノ比較研究ハ石器時代人民生活ノ狀態ヲ明ニスルノミナラズ、又甲乙兩地交通ノ有無ヲモ表示ス。

○日本石器時代人民ハ幾種族ナリシカ容易ニ知ル事能ハズト雖モ、北海道ト本州ノ大部分トニ分布棲息セシモノハ一種族タリシ事種々ノ點ニ於テ遺物ノ一致スルヲ以テ知ルヲ得。他語ヲ以テ之ヲ云ヘバ、或ル一種族ノ石器時代人民日本ノ大部分ニ通ジテ生存シ居リシナリ。而シテ此○主要ナル石器時代人民ハ何者ナルカ。其我々日本人ノ祖先ナラザル事ハ、遺物及ビ遺跡發見ノ人骨ノ對照ニ由リテ知ルヲ得ベク、其「アイヌ」ノ祖先ナラザル事モ、骨骼及ビ風俗ノ比較ニ由リテ知ルヲ得ベシ。

○此人民ニ關スル史傳口碑ハ日本人ノ間ニハ存スル事無キモ、「アイヌ」ノ間ニハ諸部落ニ於テ幾分カ宛存ス。是ガ總括ノ要點ヲ擧グレバ次ノ如シ。昔「アイヌ」ノ日本々州ヨリ北海道ノ地ニ移リ來リシヤ、此地ハ決シテ無人ノ境ニハアラザリシナリ。「アイヌ」ニ先チテ此地ニ鬚髯無キ人民棲息セリ。彼等ノ住居ハ竪穴ニシテ屋根ハ主トシテ蕗ノ葉ヲ以テ葺ケリ。彼等ハ石製ノ利器、土製ノ鍋椀ヲ使用セリ。彼等ハ始メ「アイヌ」ト平和ノ交際ヲ爲シ物品交換ヲ行ヒ

居リシガ、後十勝ノ地ニ於テ爭ヒヲ生ジ、「アイヌ」ニ接近シテ住スルヲ厭ヒ、同類相卒ヒ漸次北ノ方ニ移リ往ケリ。彼等ハ一種輕キ物質ヲ以テ造レル舟ヲ有シ、陸上ニテハ之ヲ荷ヒテ歩ミ、●水上ニテハ之ヲ浮ベテ乘レリ。「アイヌ」女子ノ入レ墨ハ彼等ノ女子ノ風ヲ學ビタルナリ。○北海道先住者ノ稱呼ニ付キテハ「アイヌ」ノ與ヘタル綽名ノ他知ルニ由無シ。「アイヌ」ハ先住者ヲ呼ブニ種々ノ名ヲ以テセリ。就中記憶シ易ク發音シ易キハ「コロボックル」ト云フ稱ナリ。「アイヌ」語ニテ蕗ノ下ノ人ノ義。蕗ノ葉ヲ以テ屋根ヲ葺キタルガ故ニ此名有リ。（本州居住ノ者モ假ニ此名ヲ以テ呼ブ可シ。）

○「コロボックル」繁盛ノ時代ハ今ヲ距ル事凡ソ三千年前ノ頃ナラン。彼等ノ遺跡ハ北海道ニ於テハ比較的ニ新シト雖モ、本州ニ於テハ甚ダ古キ事、貝塚ト現今ノ海岸線トノ距離、遺物ヲ覆フ土ノ厚サ、●貝塚發見ノ●貝殻ト現存貝殻トノ相異等ニ由リテ推知スルヲ得。

○「コロボックル」移住ノ方向ヲ精ク調査スル事ハ容易ノ業ニ非ズ。彼等ハ元來何レノ地方ヨリ日本ノ地ニ入リ込ミタルカ、今之ヲ明言スル事甚ダ困難ナリト雖モ、北海道ト本州トノ古物遺跡ヲ對照シテ、其新古ニ由リテ判斷スルニ、彼等ハ最近ノ移住ニ於テ南方ヨリ北方ニ向ヒシ事更ニ●疑ヒ無シ。

○「コロボックル」ノ体質ニ付キテハ推考ノ根據トスベキモノ甚ダ少シ。男子ヲ摸シタラント思ハルヽ土偶ニ鬚髯ヲ示シタルモノ無キ事、貝塚發見ノ人類脛骨極メテ扁平ナル事、及ビ貝塚發見ノ人類顎骨齲齒ヲ有スル事ノ他、實物ニ付キテハ何事ヲモ知ル事能ハザルナリ。

○「コロボックル」ノ風俗ハ「アイヌ」間ニ存スル口碑ニ由リテモ幾分カ窺ヒ知ルヲ得ト雖モ、古物遺跡ヲ基礎トスル時ハ更ニ精ク追想スルヲ得ルナリ。彼等ガ筒袖ヲ着、股引ヲ穿チシ事、男女ノ服装ニ稍異ル所有リシ事、結髪ノ様々ナリシ事、男子ノ遮光器ヲ用ヰ、女子ノ覆面ヲ用ヰシ事、等ハ土偶ヲ以テ證スベシ。彼等ガ鳥獣魚介ノ肉ヲ食ヒ、時トシテハ人肉ヲモ食ヒシ事、彼等ガ火食ノ法ヲ知リ居リシ事等ハ貝塚發見ノ貝殻、骨類及ビ灰、焼ケ木等ヲ以テ證スベシ。彼等ガ、少クトモ北海道ニ於テ、地ヲ堀リ凹マシテ住居トセシ事ハ彼ノ地ニ存スル竪穴ヲ以テ證スベシ。漁獵ノ法ノ如キ。製造ノ術ノ如キ、皆遺物ノ比較研究ニ由リテ知ルヲ得ベキナリ。

○「コロボックル」ノ運命如何。彼等ハ北海道ノ地ニ於テ絶滅セシカ、或ハ更ニ北方ニ移リテ今尚ホ其血統ヲ存スルカ。是レ極メテ重要ノ問題ナリト雖モ、材料不足ニシテ確答ヲ下ス事能ハズ。

○「コロボックル」ニ最モ好ク似タル人民ハ何所ニ現存スルヤトノ問ヒニ對シテハ、北亞米利加ノ北端及ビ「グリーンランド」ト答フルヲ得ベシ。是等ノ地方ニ住スル「エスキモー」（自稱ニ隨ヘバ「インヌイト」）ノ容貌風俗ハ「アイヌ」間ノ口碑ト古物遺跡トニ由リテ推測サレタル「コロボックル」ノモノト誠ニ好ク類似セリ。

○「コロボックル」ト「エスキモー」トノ一致ノ點中殊ニ趣味有ルモノヲ擧グレバ次ノ如シ。

男子鬚髯無ク女子ト容貌ヲ等ウス。女子入レ墨ヲ以テ身ヲ飾ル、男子遮光器ヲ用ウ。男女共筒袖股引ヲ着ス。男子ノ服ハ胸ノ部開ク事短ク、女子ノ服ハ胸ノ部開ク事長シ。利器ノ原料トシ

テハ石、及ビ獸骨獸牙ノ類ヲ用ウ。小人形ヲ造ル。漁業ニ銛ヲ用ウ。住居ノ敷ヲ堀リ凹ム。輕クシテ荷ヒ易キ舟ヲ有ス。

○「コロボックル」ト「エスキモー」トノ相異ノ點モ亦注意セザル可カラズ。甲ハ種々ノ土器ヲ造レドモ乙ハ更ニ造ル事無シ。甲ハ唐草ノ如ク連續セル摸樣ヲ好メドモ乙ハ之ヲ好マズ。甲ノ製作品中ニハ繪ト名ヅク可キモノ殆ト皆無ナレドモ乙ノ製作品中ニハ其例決シテ稀ナラズ。甲ハ種々ノ織リ物編ミ物ヲ有スレドモ乙ハ之ヲ有セズ。

○「コロボックル」ト「エスキモー」トノ關係ヲ約言スレバ左ノ如シ。「エスキモー」ハ最モ好ク「コロボックル」ニ似タル人民ナリ。然レドモ總テノ點ニ於テ同樣ナルニハアラズ。未ダ「エスキモー」ヲ以テ純然タル「コロボックル」ノ後裔トハ斷定スベラズ。或ハ「コロボックル」ト他種族ト混交シテ「エスキモー」ヲ生ジタルヤモ知ルベカラズ。或ハ一大種族ノ一部、先ヅ分カレテ「エスキモー」ノ本ヲ作リ、他部我ガ日本ノ地ニ入リテ「コロボックル」ノ本ヲ作リタルヤモ知ルベカラズ。兩者關係ノ眞相果シテ如何ナリシカ未ダ明言スル事能ハズト雖モ、本州、北海道、其東北ニ横ハル諸島、北亞米利加ノ北端、「グリーンランド」、地理學的ニ連接シテ彼我交通ノ途有ルヲ思ヘバ、兩者ノ間ニ何等カノ親密ナル關係ノ存スベキハ實ニ疑ヒヲ容レザルナリ。

○日本石器時代人民ニ關スル研究ハ啻ニ日本ノ古事ヲ明カニスルニ於テ有力ナルノミナラズ、人類學上益スル所又決シテ少カラザルナリ。日本ニ於ケル先史人類ノ多寡盛衰、移住ノ方向、

他種族トノ關係、初メテ現レタル年代、痕ヲ絶チタル年代、社會ノ狀態、生活ノ有樣、工藝技術ノ進歩發達等、皆此研究ニ由リテ知ルヲ得ベキ事項ニシテ、是等ニ關スル智識ハ實ニ人類學ノ歡迎スル所タリ。日本ト云フヲ以テ直ニ範圍狹シトナス勿レ。石器時代人民ト云フヲ以テ唯野蠻ノ一種族ニ關スト速斷スル勿レ。日本石器時代人民ニ關スル研究ノ結果ハ廣ク人類學ヲ益スルモノナル事ヲ忘ル可カラズ。讀者中若シ此

●●●●●●

○遺物發見地名表ニ由リテ、石器時代人民ノ如何ニ分布シ居リシカト云フ事ト、如何ナル遺物ハ何レノ地方ニテ發見サレシカト云フ事トヲ察知シ、且ツ之ヲ以テ既知遺跡實踐ノ案内トシ、未知遺跡搜索ノ手掛カリトナス人有ラバ、是レ實ニ人類學ノ爲ニ忠ナル者ト謂フベク、假令少數タリトモ此ノ如キ讀者ヲ得ル有ラバ本表編輯ノ勞モ空カラズト謂フベキナリ。

青空文庫情報

底本：「日本考古学選集　2　坪井正五郎集―上巻」築地書館
　　1971（昭和46）年7月20日発行
底本の親本：「日本石器時代人民遺物発見地名表」東京帝国大学
　　1897（明治30）年6月
初出：「日本石器時代人民遺物発見地名表」東京帝国大学
　　1897（明治30）年6月
※「器」と「器」の混在は、底本通りです。
入力：Nana ohbe
校正：しだひろし
2008年10月27日作成
2016年2月2日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

石器時代總論要領

坪井正五郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/